

街頭人定酒初醒
一路驅車氣晦冥
影冷招魂社畔月
海濤響處夜風腥

呼鳴、港の運命を双肩に負ふ勇士の胸底果して如何。

郷土の人は築港と云へば近江谷さんを聯想し、近江谷さんといへば直ちに築港を想起す亦理あることである。

古市博士と俠妓おたつ 時は四十四年以前の昔に遡る。港は池鯉

亭の一室年齒若き、二人の男女はおたつと博士であることは云ふ迄もない。美人と青年技術家とのラブシーン俠妓おたつは大の築港信者であり、古市博士は元より古市波止場の設計者であるから堪らない。築港が取持つ縁の橋は共鳴する二つの魂に固くも架けられて、波止場はヨリ早く立派に竣成した。

おたつは獨り佇んで物思に耽る頃は古市博士は男爵の榮譽を負ひ、港灣協會副會長として時めいてゐる。時は過ぎ逝き古市波止場は今三千噸を繋ぐ岸壁築造の晴れの起工式場たらんとしてゐる。

廣井博士の床しき心 我國港灣學界の權威である博士廣井勇氏は

明治三十三年第二波止場を築造したものである。

春風秋雨、三十年は夢の裡に流れた。昭和二年は水の町港にも大火が起り、しかも三度の大火は不況に沈んでゐる『土崎港』の名は當時の新聞には二段抜き初號活字の大見出しで世に聞はれた。心もとない役場更眞は萬年筆の走り書の一通の書面を配達されて氣にも止めずにあたが、その差出人こそ廣井博士その人であつた。金一封を添へた懇篤な芳書それは博士の昔を偲ぶ床しき心つくしであつた。町氏は此話を傳へ聞き感激に咽んでゐる。

土 木 学 会 誌

加賀谷三次郎著

土木学会誌

土 崎 築 港 誌

加賀谷三次郎著

登 録	昭和	57.5.31	年 月 日
番 号	第	25985	号
社 団 法 人	土 木 学 会		
附 属	土 木 図 書 館		

土崎文化協會刊行

土崎築港誌

目次

- 一、古來の築港……………一
- 二、古市波止場の築造……………二
- 三、廣井波止場の築造……………六
- 四、土崎築港と最初の港灣調査會……………九
- 五、廣井波止場の調査報告……………四九
- 六、雄物川改修と築港……………一〇五
- 七、開港特許と税關監視署……………一五三
- 八、築港促進會と期成同盟會……………一五五
- 九、計畫決定の臨時港灣調査會……………一六八
- 十、縣會の諮問と議決……………一七三
- 十一、起工式と起債許可問題……………一七九

十二、築港の経緯……………一九四

築港偉績近江谷井蔵……………古市博士と侯威せなつ
 市瀬博士の河津論……………築港論と那珂翁
 秋田毎日新聞と築港……………貿易特許と幹事選
 軍艦を引張り込む……………船頭補の功徳
 賠償許可物語……………赤津翁と三十蔵相
 廣井博士の床しき心三……………築港政治家を生む
 來島技師と洋行……………町長を被脱する大橋町議

寄
 昭和三年九月廿八日
 南松田郡土崎町旭町
 贈
 加賀谷三次郎

土崎築港誌

昭和三年八月十九日印刷
昭和三年八月二十日發售

不許複製

著者 秋田縣南秋田郡土崎港町旭町三九番地
發行所 加賀谷三太郎

印刷所 秋田縣南秋田郡土崎港町旭町三九番地
太陽堂印刷所

電話三〇五番